OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2019年3月期　経営方針

2018年5月11日
オリンパス株式会社
代表取締役社長執行役員
笹　宏行

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

No data copy / No data transfer permitted

IFRS任意適用について

- 当社グループは2018年3月期第1四半期連結累計期間の連結財務諸表より、国際財務報告基準（”IFRS”）を任意適用しています。
- 比較分析のため、前連結会計年度の連結財務諸表につきましてもIFRSに準拠して表示しています。

No data copy / No data transfer permitted

本日の内容

■ **2019年3月期　経営方針**

1. 16CSP（中期経営計画）2年間の振り返り

2. 成長に向けた今後の対応方針

■ 2018年3月期　決算概況

■ 2019年3月期　通期業績見通し

No data copy / No data transfer permitted

1. 16CSP(※)2年間の振り返り

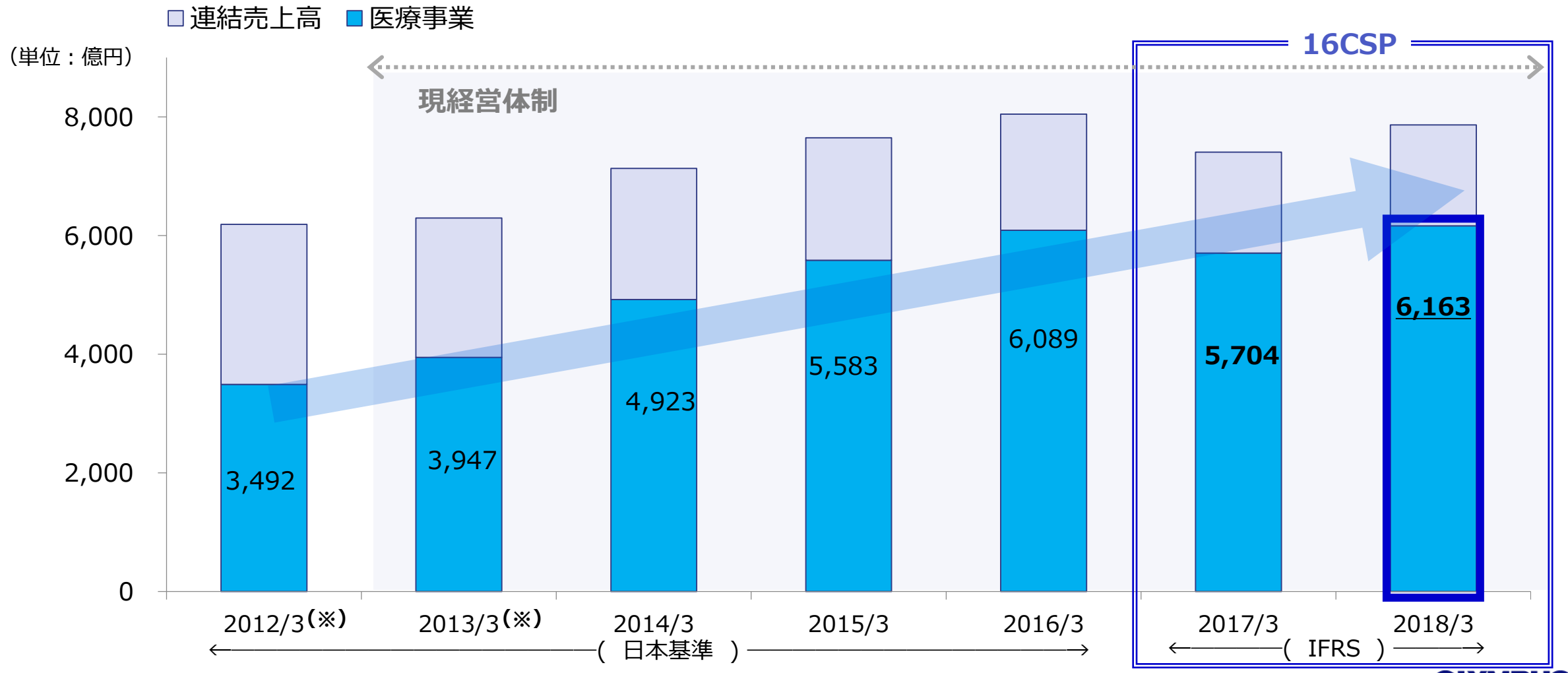
（※）16CSP：2017年3月期を初年度とした5ヵ年の中期経営計画

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

16CSP 2年間の振り返り：　①売上高の推移（連結、医療事業）

- 医療事業が順調に成長し、全社の業績を牽引
- 主力の消化器内視鏡が製品サイクル後半の中、**医療事業は過去最高の売上高を更新**



(※) 情報通信事業譲渡の影響控除後の数値

No data copy (No data copy) © 2018 OLYMPUS CORPORATION

16CSP 2年間の振り返り：　②事業の進捗（医療事業）

■ **主力の医療事業は、全社の業績を支える基幹事業として今後の成長に向けた投資、施策を着実に実行**

16CSP重点施策（医療）
1. 圧倒的な消化器内視鏡ビジネスのシェア・収益性の維持拡大と処置具、外科の飛躍的拡大
2. 「インストールベース型医療ビジネス」から「症例数ベース型医療ビジネス」へ
3. 新興国市場でのビジネス拡大
4. GPO／IDN*1対応強化
5. QA／RA*2機能強化
6. 生産性の向上

（進捗）

- 外科分野では4K外科内視鏡システムによる**他社アカウントからのコンバージョンが順調に進捗**
- **処置具分野は計画に沿って拡大**(特にERCP分野の販促を強化)
- **2桁成長を継続するエネルギーデバイス「THUNDERBEAT」の生産増強**と効率化を目指して、北米での開発・製造体制を構築
- **アジア・オセアニア地域は全分野で好調に推移、2年連続で2桁成長**を達成
- 新興国市場のさらなる拡大に向けて、トレーニング/サービスセンターをタイ、ドバイに設立
- 2017年6月に買収した**ISM社との連携により、最大市場である北米において複数の大型IDNとの新規商談の獲得が大きく進捗**
- 欧米を中心に、修理インフラの強化も順調に進捗

＊1)GPO(Group Purchase Organization):医療共同購買組織、IDN(Integrated Delivery Network):総合医療ネットワーク
＊2)QA/RA：品質・製品法規制対応

No data copy / No data transfer permitted

外部環境の変化（16CSP策定時の想定とのギャップ）

マクロ環境

■ 16CSP策定時の環境認識と基調として大きな変化はないが、**法規制強化や技術革新など、事業を取り巻く環境の変化が加速している**

事業環境

	当初の環境認識と大きな変化なし	想定を超えた環境変化（ギャップ）
医療	• 中国を中心とした新興国は2桁成長が継続*1 • 症例数の増加に伴い、市場成長が継続 • 先進国における医療費抑制の動き • グローバルMedTech企業ほか、新興国企業の参入等新たな競争激化	● **EU-MDR*2や各国の医療機器申請・登録等の法規制の要求事項が高まっている** ● 北米を中心に**リプロセス（洗浄・消毒・滅菌）要求の高度化の動きが加速**
科学	• **産業分野**は、航空機・自動車などインフラメンテナンスは検査需要で成長が継続	● **ライフサイエンス分野**は、新興国は安定成長するも、先進国においては政府研究予算の停滞等により市場が縮小傾向
映像	• **デジタルカメラ市場**の縮小が継続	● **ミラーレス市場**が伸長する一方で、競合の本格参入により環境が大きく変化

＊1) アジア・オセアニア地域の為替を除く成長率は2017/3:+15%、2018/3:+11%と2桁成長が継続。＊2)EU-MDR：欧州医療機器規制

No data copy / No data transfer permitted

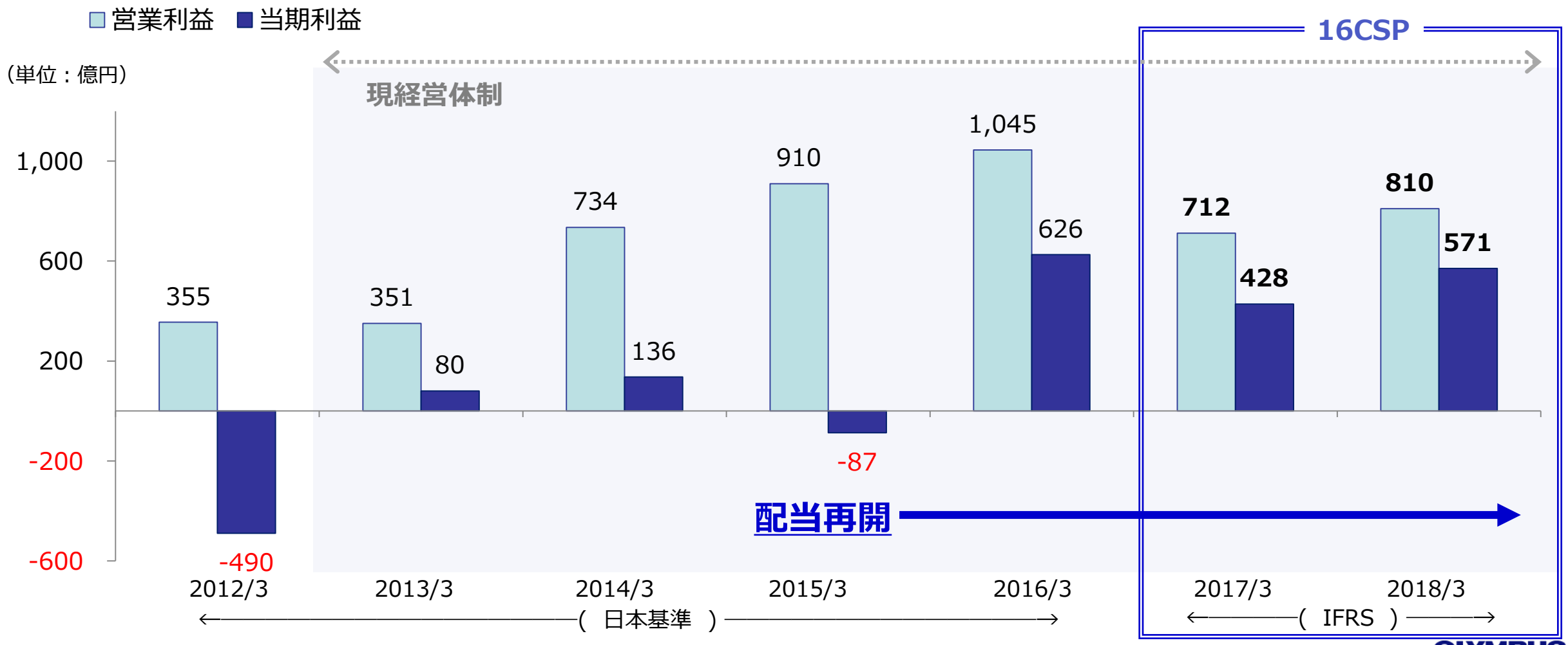
環境変化を受けた事業への影響

	環境変化を受けた事業への主な影響
医療	● 法規制やリプロセス(洗浄・消毒・滅菌)、品質問題等への対応を、**既存製品に対して優先したことを主因に、開発リソースに制約が生じ、各種の主要な新製品の導入遅れにつながった** ● 外科分野では、新製品（VISERA ELITE II）の立ち上げ時の生産問題による供給遅れや、北米における認可取得の遅れ等による導入遅れ等を背景に、**外科はスローな出だしとなった**
科学	● ライフサイエンス分野では、新興国で成長したが、先進国においては政府研究予算の停滞等を背景に前年並みの成長に留まった ● 産業分野は足元は全地域で堅調に推移しているが、16CSP初年度は市況の低迷を受けて**当初の計画よりも成長が出遅れた**

No data copy / No data transfer permitted

16CSP 2年間の振り返り：　③連結実績（営業利益、当期利益）

- **16CSP前半は後半の成長に向けた投資の期**と位置付け、この2年間、計画どおり実行
- **当期利益*は安定的に確保できる体質に改善**



（＊）親会社の所有者に帰属する当期利益

No data copy / No data transfer permitted

16CSP 2年間の振り返り：　④主要指標の進捗（16CSP経営目標）

- **ROEと自己資本比率は計画どおり進捗**
- 営業利益率とEBITDAは、想定を下回る進捗
- 特に、**事業成長性において課題を認識**（想定とのギャップを認識）

KPI	2017/3 （日本基準）	2017/3 （IFRS）	**2018/3 （IFRS）**	**2021/3 （16CSP経営目標）**
ROE （資本効率性）	19%	11%	**14%**	**15%**
営業利益率 （事業収益性）	10.2%	9.6%	**10.3%**	**15%**
EBITDA （事業成長性）	1,298億円 （△16%）	1,240億円	**1,339億円 (+8%)**	**2,400億円 （2桁成長）**
自己資本比率 （健全性）	43%	41%	**45%**	**50%**

No data copy / No data transfer permitted

2. 成長に向けた今後の方針

No data copy / No data transfer permitted

16CSPの目標達成に向けて

■ **経営資源の効率的な活用、業務改革プロジェクトの推進等により、16CSPで掲げた重点施策を確実に実行する**

16CSP重点戦略
1．事業成長に向けた積極的な取り組み
2．必要経営資源の適時確保・最大活用
3．持続的成長を可能とする将来に向けた仕込み
4．更なる事業効率の追求
5．グローバル・グループ連結経営深化に向けた体制強化
6．品質・製品法規制対応、内部体制の強化、コンプライアンスの徹底

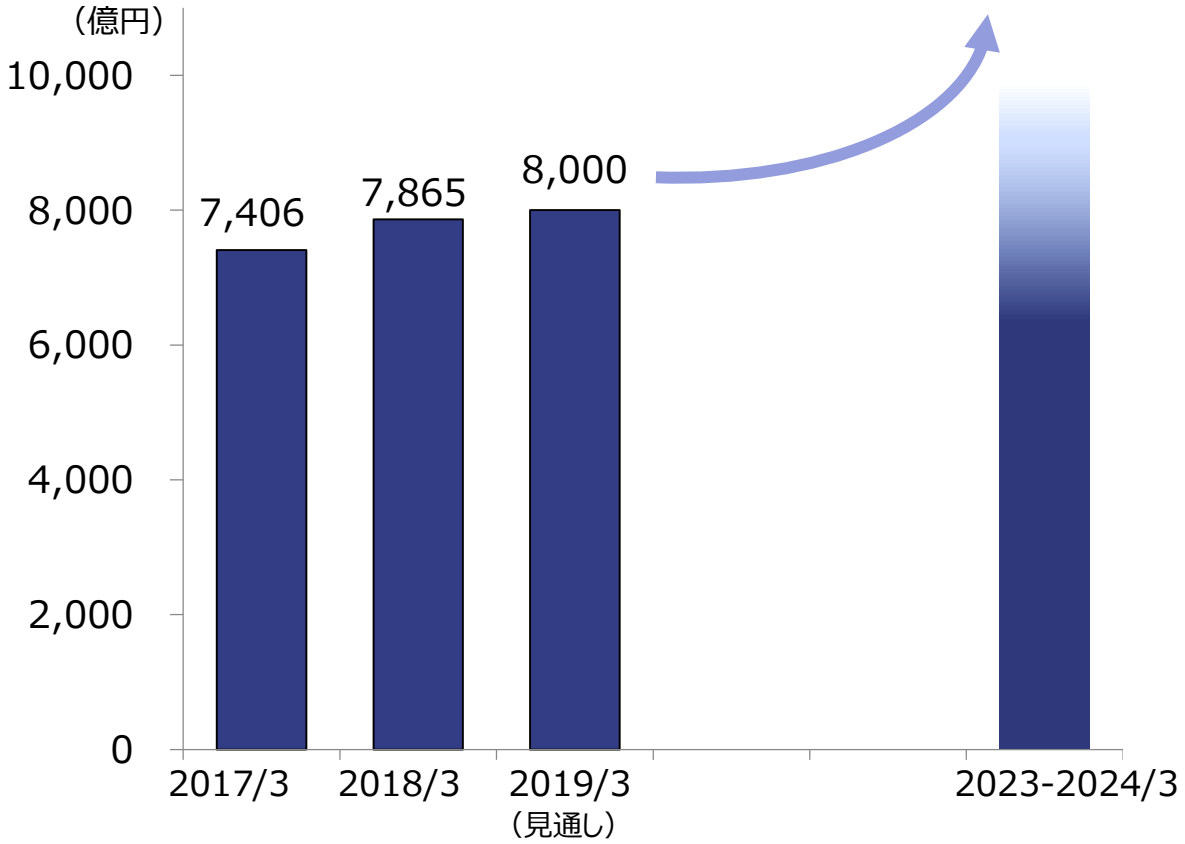
No data copy / No data transfer permitted

16CSPの見直しについて：連結売上高・営業利益

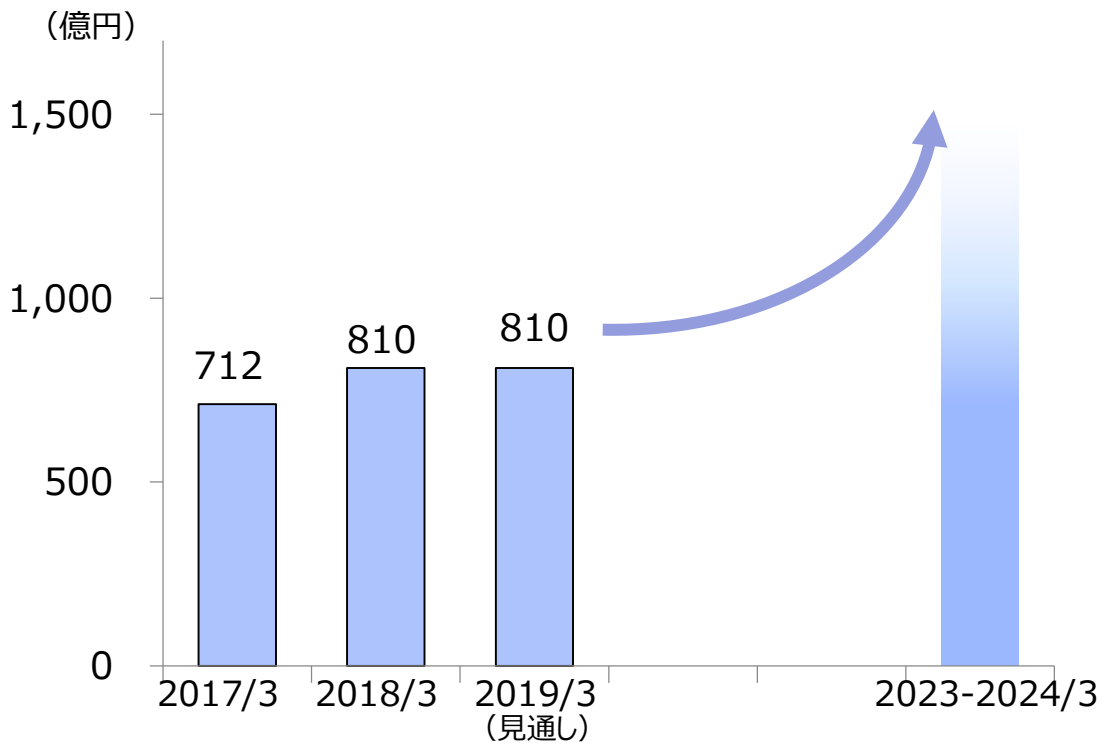
- **16CSPの売上高・営業利益の為替前提を見直し**
- **2～3年遅れで、調整した目標値を達成する見通し**

【16CSP策定時】		【2019/3期 想定レート】
円／USドル：115円	→	**円／USドル：105円**
円／Euro： 130円		**円／Euro： 130円**

連結売上高



連結営業利益



No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

成長に向けた今後の方針：①医療事業

※医薬品医療機器等法未承認品を含む

■ **主力製品の導入により想定どおりの成長が見込めるため、戦略および数値目標の大きな変更はない見通し**

基本方針（主なポイント）

消化器内視鏡

- 新製品の開発・製品化を確実に遂行
- 次世代システム導入までは販促プログラムを充実
- 法規制やリプロセス（洗浄・消毒・滅菌）関連要求への対応強化
- 業務改革・効率化を通じた収益の確実な確保

外科

- 新製品の導入遅れや供給問題の早期解決
- 戦略製品の価値を訴求し、市場の成長率を上回る成長の実現
- シングルユース・デバイス売上拡大
- 収益性の向上

処置具

- 継続的な製品ラインアップの拡充、シングル・ユース・デバイスの拡販に向けたセールス組織・体制の強化

今後の成長をドライブする製品イメージ※

次世代内視鏡システム

次世代内視鏡
洗浄消毒装置

次世代超音波
気管支鏡

モーター駆動型
小腸内視鏡

超広画角大腸内視鏡

赤外観察対応

新型3Dスコープ
(硬性、先端湾曲)

外科内視鏡システム
「VISERA ELITE II」

手術室システムインテグレーション
（ISM社：IP映像マネージメント）

THUNDERBEAT
Type-S

4K外科内視鏡
システム

No data copy / No data transfer permitted

成長に向けた今後の方針：②科学事業／映像事業

科学事業

- **ライフサイエンス分野の戦略は見直す方向**
- **当初目標として掲げた収益性の改善（営業利益率10%）を目指し、重点施策を確実に実行する**

✓ ライフサイエンス分野：売上規模を追わず、収益性の追求へ方針を変更

✓ 産業分野：成長ドライバーである「製造」「インフラメンテナンス」「環境・天然資源」の各顧客群におけるポートフォリオ拡大を加速させ、利益ある成長を追求する

ライフ研究

FV3000
（レーザー走査型顕微鏡）

製造

IPLEX NX
（工業用顕微鏡）

インフラ
メンテナンス

環境・
天然資源

VANTA
（蛍光X線分析装置）

映像事業

- **当初の計画どおりの進捗**
- **戦略および数値目標の変更はない（売上規模を追わず、安定的に利益を創出する）**

✓ 黒字化構造の定着に向けて、構造改革を継続推進

✓ 中国シンセンからベトナム工場への生産移管完了後の生産能力強化と効率化の推進

✓ 収益性の高いミラーレスカメラ・交換レンズの強化を継続し、Specialistの顧客ニーズに合った販売戦略を推進

OM-D E-M1
Mark Ⅱ

PEN E-PL9

F1.2大口径単焦点
シリーズ（PROレンズ）

No data copy / No data transfer permitted

ご案内：「Investor Day 2018」開催

日時：	2018年9月5日（水）
主な内容：	16CSP（中期経営計画）を中心に事業の進捗を説明 （プレゼンテーション、質疑応答　※製品展示あり）
登壇者：	代表取締役社長　笹 宏行 取締役副社長 CFO　竹内 康雄 医療事業責任者、米州統括責任者、ほか

No data copy / No data transfer permitted

経営方針

To be the greatest “Business to Specialist” Company

Business to Specialist Companyとして、顧客の要求、
ニーズの本質を捉え、確実に事業成長と収益性の向上を目指す

No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2018年3月期 連結決算概況
2019年3月期 通期見通し

2018年5月11日

オリンパス株式会社
取締役副社長執行役員　CFO
竹内　康雄

2018年3月期　通期実績　①連結業績概況

❶ 売上高　：主力の医療事業を中心に堅調に推移し、前年比6%増収
❷ 利益　　：全ての利益項目で前年比2桁増益

通期実績（4-3月）

（単位：億円）	2017年3月期	2018年3月期	前年比	為替影響調整後	2018年3月期見通し（2月9日公表）	見通し比増減額	見通し比
売上高	7,406	7,865	❶ +6%	+2%	7,840	+25	0%
売上総利益 （売上総利益率）	4,785 (64.6%)	5,105 (64.9%)	+7%	+2%	5,200 (66.3%)	▲95	▲2%
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	3,977 (53.7%)	4,266 (54.2%)	+7%	+4%	4,300 (54.8%)	▲34	▲1%
その他の収益および費用等	▲96	▲29	-	-	▲40	-	-
営業利益 （営業利益率）	712 (9.6%)	810 (10.3%)	❷ +14%	▲1%	860 (11.0%)	▲50	▲6%
税引前利益 （税引前利益率）	625 (8.4%)	767 (9.8%)	+23%		790 (10.2%)	▲23	▲3%
当期利益* （当期利益率）	428 (5.8%)	571 (7.3%)	+33%		630 (8.0%)	▲59	▲9%
円／USドル	108円	111円			111円		
円／Euro	119円	130円			128円		

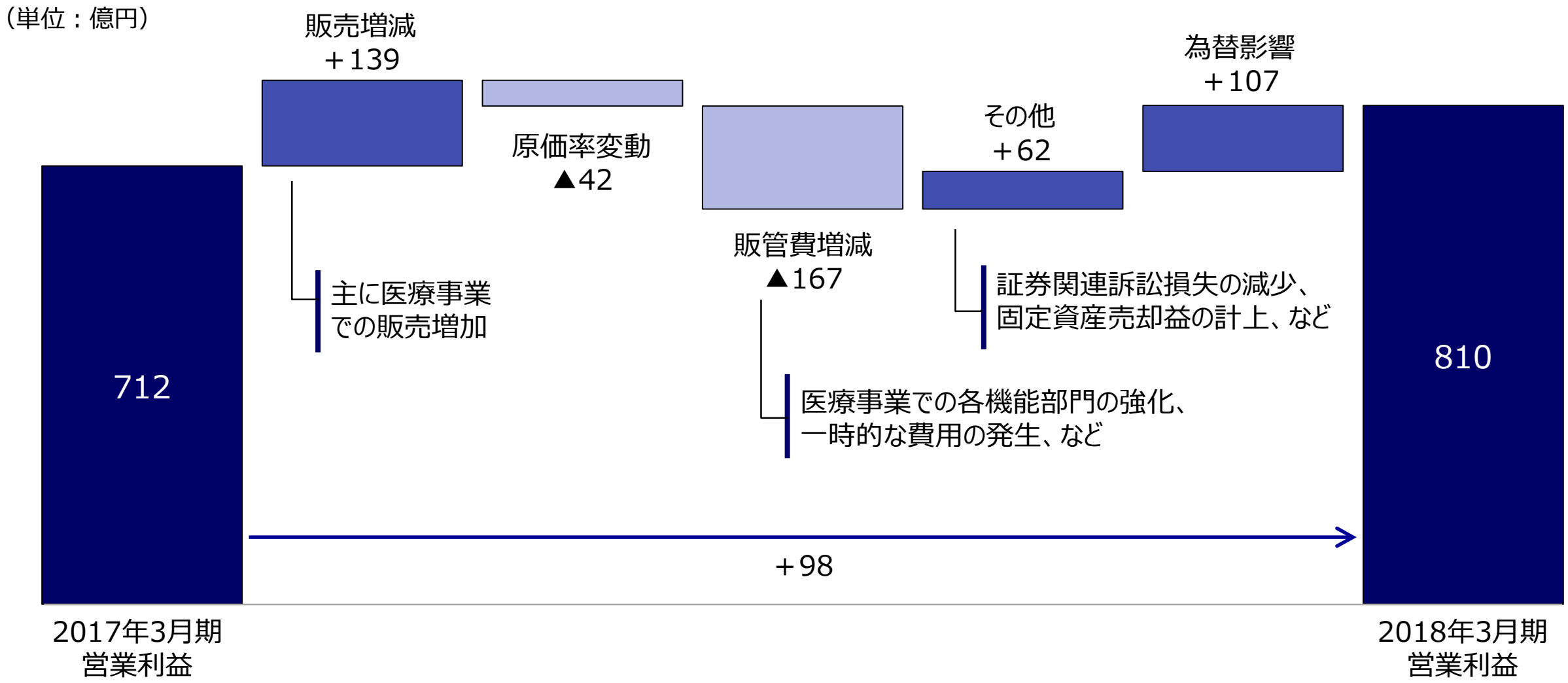
2018年3月期年間配当
期末配当28円

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

2018年3月期　通期実績　①連結営業利益増減要因

通期実績（4-3月）



No data copy / No data transfer permitted

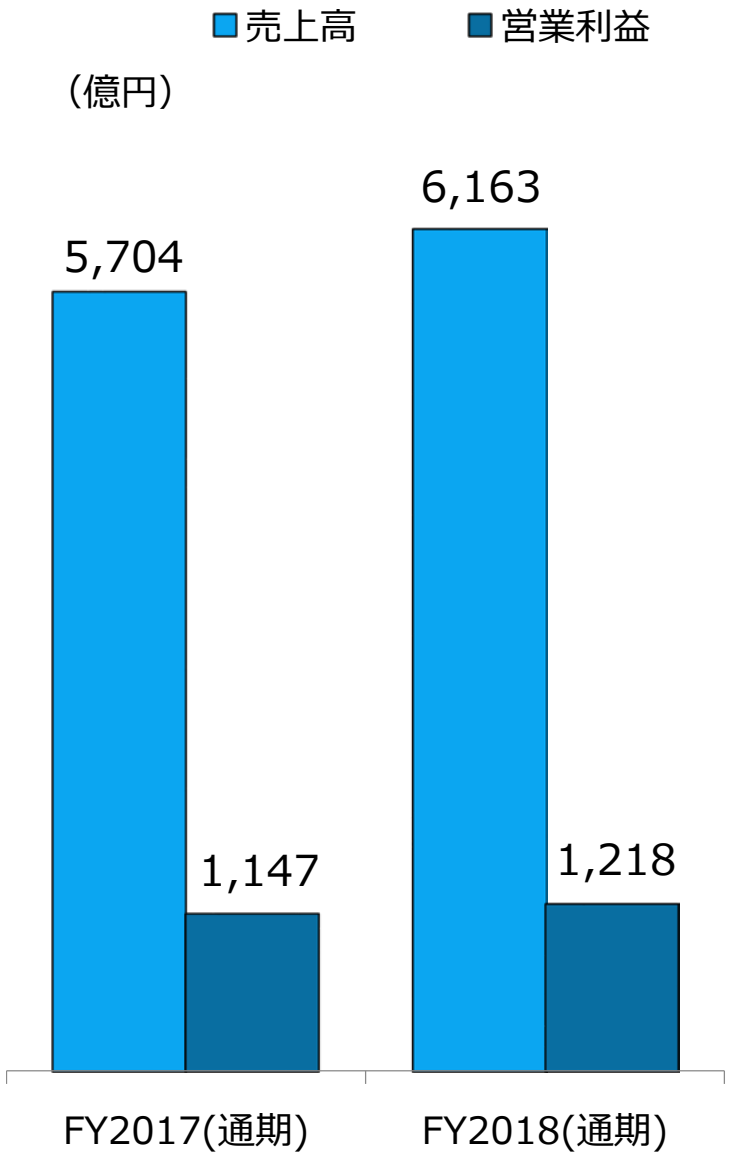
2018年3月期　通期実績　②セグメント別概況

- 医療：通期実績、4Q実績ともに過去最高の売上高を計上し、全社業績を牽引
- 科学：良好な市場環境を背景に、7%増収を達成
- 映像：中国生産子会社操業停止に伴う費用発生等により、営業損失を計上（左記費用を除くと営業利益は3億円）

（単位：億円）		通期実績（4-3月） 2017年3月期	2018年3月期	前年比	為替影響調整後	4Q実績（1-3月） 2017年3月期	2018年3月期	前年同期比	為替影響調整後
医療	売上高	5,704	6,163	+8%	+4%	1,601	1,691	+6%	+4%
	営業利益	1,147	1,218	+6%	▲1%	267	340	+28%	+22%
科学	売上高	934	1,000	+7%	+3%	298	300	+1%	0%
	営業利益	59	64	+8%	▲10%	41	29	▲28%	▲29%
映像	売上高	628	603	▲4%	▲8%	160	130	▲19%	▲20%
	営業利益	2	▲12	▲14億円	▲21億円	▲7	▲27	▲20億円	▲24億円
その他	売上高	140	99	▲29%	▲30%	28	24	▲16%	▲15%
	営業利益	▲11	▲50	▲38億円	▲38億円	▲19	▲21	▲3億円	▲3億円
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	▲485	▲410	+74億円	+69億円	▲129	▲109	+21億円	+17億円
連結合計	売上高	7,406	7,865	+6%	+2%	2,088	2,144	+3%	+1%
	営業利益	712	810	+14%	▲1%	152	212	+39%	+25%

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

2018年3月期　通期実績　③医療事業



（単位：億円）	通期実績（4-3月） FY2017	FY2018	前年比	為替影響調整後	4Q（1-3月） FY2017	FY2018	前年同期比	為替影響調整後
売上高	5,704	6,163	+8%	+4%	1,601	1,691	+6%	+4%
内視鏡	3,187	3,368	+6%	+2%	897	947	+6%	+5%
外科	1,821	2,004	+10%	+6%	524	549	+5%	+4%
処置具	695	791	+14%	+7%	180	195	+8%	+3%
営業利益	1,147	1,218	+6%	▲1%	267	340	+28%	+22%
営業利益率	*20.1%*	*19.8%*		*19.1%*	*16.7%*	*20.1%*		*19.6%*

売上高

- ✓ 内視鏡：先進国は製品サイクル後半も、新興国は好調であり、プラス成長を確保
- ✓ 外科　：外科内視鏡の新製品が好調であり、エネルギーデバイスも堅調に推移
- ✓ 処置具：ERCP製品等の戦略製品の販売が好調であり、高い成長を維持

営業利益

- ✓ 通期で6%増益、営業利益率は前年並み
- ✓ プロダクトミックスの変化により粗利率が低下
- ✓ 製造・サービス体制の強化等の費用支出により販管費が増加

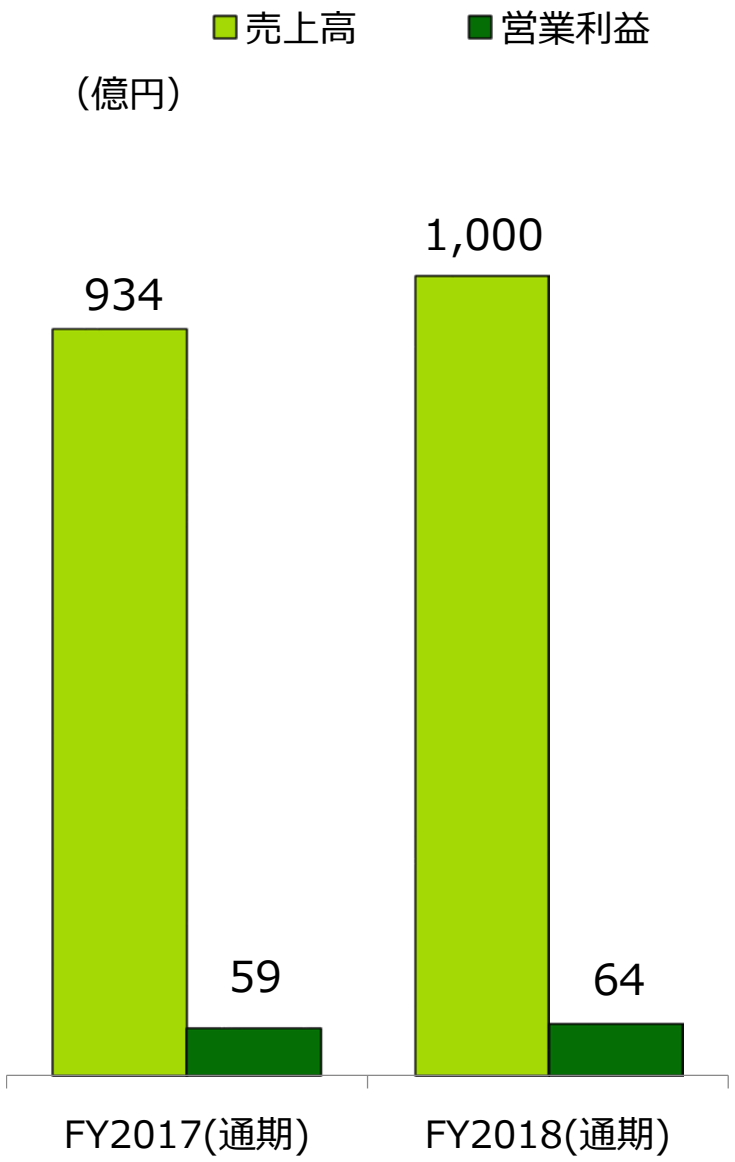
No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

2018年3月期　通期実績　③医療事業

分野	地域	現地通貨別成長率				分野別の状況
		2017年3月期		2018年3月期		
		4Q	通期	4Q	通期	
消化器内視鏡	日本	0%	▲2%	▲3%	▲2%	• 日米欧：主力製品がライフサイクル後半であり、前年並みの成長 • アジア・オセアニア：特に中国が好調に推移
	北米	0%	0%	+7%	+1%	
	欧州	+8%	+6%	+7%	▲1%	
	豪亜	+14%	+18%	+6%	+10%	
	全地域	+4%	+4%	+5%	+2%	
外科	日本	▲7%	▲2%	+12%	+9%	• 日本：「VISERA ELITE Ⅱ」の新製品効果とエネルギーデバイスの好調な売上により、堅調な伸び • 北米：主力製品がライフサイクル後半であるものの、ISM社との連携効果による商談成立もあり、プラス成長を確保 • 欧州：前年同期の高成長の反動により、4Qはマイナス成長
	北米	▲1%	+2%	+6%	+2%	
	欧州	+35%	+10%	▲6%	+6%	
	豪亜	+7%	+10%	+3%	+10%	
	全地域	+6%	+4%	+4%	+6%	
処置具	日本	+4%	+7%	+3%	+7%	• ERCP*製品等の販売が堅調であり、全地域でプラス成長 • 特にアジア・オセアニアが好調 *ERCP：内視鏡的逆行性胆管膵管造影
	北米	+7%	+10%	0%	+4%	
	欧州	+5%	+6%	+3%	+3%	
	豪亜	+7%	+9%	+8%	+16%	
	全地域	+5%	+7%	+3%	+7%	

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

2018年3月期　通期実績　④科学事業



（単位：億円）	通期実績（4-3月） FY2017	FY2018	前年比	為替影響調整後	4Q（1-3月） FY2017	FY2018	前年同期比	為替影響調整後
売上高	934	1,000	＋7%	＋3%	298	300	＋1%	0%
営業利益	59	64	＋8%	▲10%	41	29	▲28%	▲29%
営業利益率	*6.3%*	*6.4%*		*5.6%*	*13.6%*	*9.7%*		*9.7%*

売上高

✓ 堅調な資源価格や、半導体・電子部品市場の好況により、産業分野の販売が好調に推移し、通期で7%増収

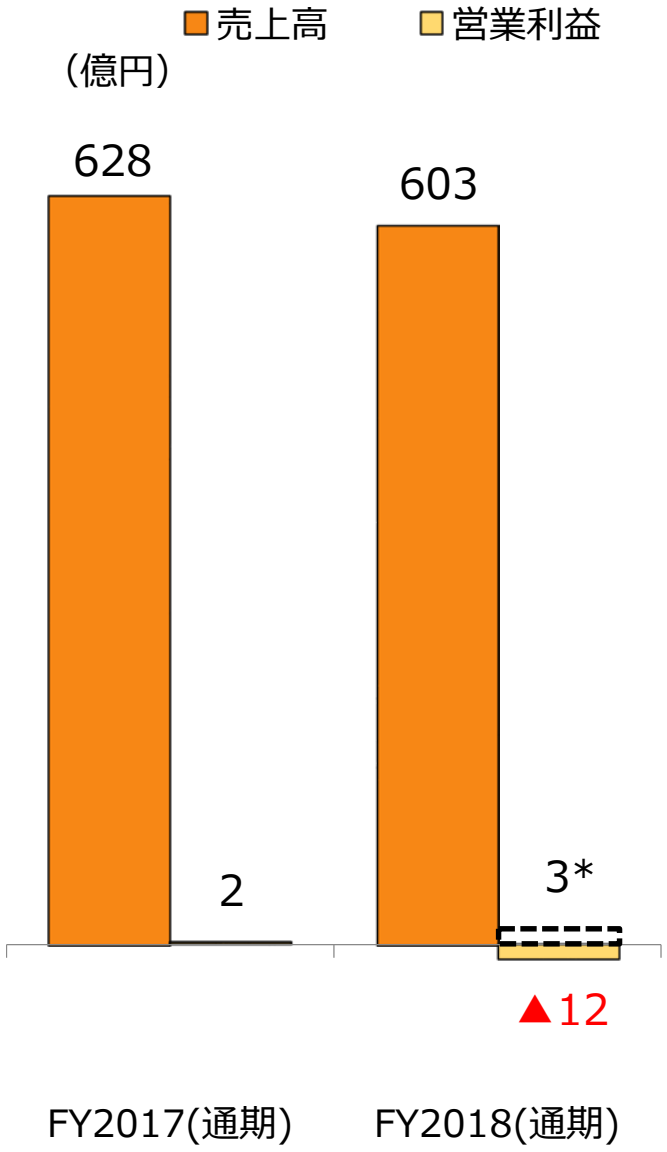
・日本：工業用内視鏡の新製品の販売が好調に推移
・北米：非破壊検査機器が売上に寄与
・欧州：X線分析計の大口受注が売上に貢献
・中国：生物顕微鏡、工業用顕微鏡の売上を拡大

営業利益

✓ 為替の追い風と増収効果により、通期で8%増益

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

2018年3月期　通期実績　⑤映像事業



（単位：億円）	通期実績（4-3月） FY2017	FY2018	前年比	為替影響調整後	4Q（1-3月） FY2017	FY2018	前年同期比	為替影響調整後
売上高	628	603	▲4%	▲8%	160	130	▲19%	▲20%
ミラーレス	474	468	▲1%	▲5%	133	102	▲23%	▲25%
コンパクト	102	86	▲15%	▲18%	16	17	+6%	+6%
その他	53	49	▲7%	▲10%	12	11	▲6%	▲6%
営業利益	2	▲12	▲14億円	▲21億円	▲7	▲27	▲20億円	▲24億円
営業利益率	*0.2%*	-		-	-	-		-
営業利益*	-	3	+1億円	-	-	▲12	▲5億円	-
営業利益率*	-	*0.5%*		-	-	-		-

*中国生産子会社操業停止の影響を除いた数字

売上高

✓ コンパクトカメラ、録音機の販売減少に加え、ミラーレス一眼の販売が前年並みに留まり、通期で4%減収

営業利益

✓ 生産構造改革費用（中国生産子会社操業停止に伴う費用）計上により、4Q、通期ともに営業損失

✓ 中国生産子会社操業停止の影響を除けば、2期連続の黒字達成

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

財政状態計算書

- ■ 資本　：当期利益571億円の計上により利益剰余金が増加
- ■ 自己資本比率　：利益剰余金の増加および有利子負債の削減により45.2%に

（単位：億円）	2017年3月末	2018年3月末	増減額
流動資産	5,057	5,143	+85
棚卸資産	1,253	1,393	+140
非流動資産	4,543	4,644	+101
有形固定資産	1,597	1,682	+85
無形資産	759	734	▲25
のれん	956	972	+16
資産 合計	9,600	9,787	+186

	2017年3月末	2018年3月末	増減額
流動負債	2,865	3,059	+195
社債及び借入金	688	888	+200
非流動負債	2,774	2,285	▲489
社債及び借入金	2,172	1,592	▲580
資本	3,962	4,443	+480
自己資本比率	*41.1%*	*45.2%*	*+4.1pt*
負債及び資本 合計	9,600	9,787	+186

有利子負債：2,480億円（2017年3月末比▲380億円）

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

連結キャッシュフロー計算書

■ FCF：欧州の製造サービス拠点強化に伴う設備投資や、ISM社*買収による支出があった一方、事業活動から創出される利益を中心に、418億円を確保

通期実績

（単位：億円）	2017年3月期	**2018年3月期**	増減
売上高	7,406	7,865	+459
営業利益	712	810	+98
営業利益率	*9.6%*	*10.3%*	*+0.7pt*
営業キャッシュフロー	1,021	951	▲69
投資キャッシュフロー	▲208	▲533	▲325
フリーキャッシュフロー	812	418	▲394
財務キャッシュフロー	▲436	▲511	▲74
現金及び現金同等物期末残高	1,995	1,912	▲82
減価償却費	529	529	0
設備投資額	607	653	+46

*Image Stream Medical社。2017年6月買収完了

No data copy / No data transfer permitted

2019年3月期 通期業績見通し

No data copy / No data transfer permitted

通期見通し　①連結業績

- 医療事業が堅調に推移し、前年比２％の増収
- 映像事業で中国生産子会社操業停止の追加費用等が発生するも、為替を除く実質ベースでは、同9%の増益

（単位：億円）	2018年3月期 通期実績	**2019年3月期 通期見通し**	増減	前年比	為替影響調整後 前年比
売上高	7,865	8,000	+135	+2%	+4%
売上総利益 （売上総利益率）	5,105 (64.9%)	5,270 (65.9%)	+165	+3%	+6%
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	4,266 (54.2%)	4,380 (54.8%)	+114	+3%	+5%
その他の収益および費用等	▲29	▲80	▲51	-	-
営業利益 （営業利益率）	810 (10.3%)	810 (10.1%)	0	0%	+9%
税引前利益 （税引前利益率）	767 (9.7%)	760 (9.5%)	▲7	▲1%	
当期利益* （当期利益率）	571 (7.3%)	590 (7.4%)	+19	+3%	
EPS	167円	173円			
円／USドル	111円	105円	▲6円(円高)		
円／Euro	130円	130円	-		

2019年3月期配当予想

年間配当30円を予定

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

No data copy / No data transfer permitted

通期見通し　②セグメント別業績

- 医療：収益力を強化し、営業利益は2桁成長
- 科学：為替を除く実質ベースでは、増収増益を確保
- 映像：中国生産子会社操業停止の費用発生等により、営業損失を計上（左記費用を除くと営業利益は25億円）

（単位：億円）		2018年3月期 通期実績	**2019年3月期 通期見通し**	増減額	前年比	為替影響調整後 前年比
医療	売上高	6,163	6,340	+177	+3%	+6%
	営業利益	1,218	1,350	+132	+11%	+17%
科学	売上高	1,000	1,000	0	0%	+3%
	営業利益	64	70	+6	+9%	+31%
映像	売上高	603	600	▲3	0%	+1%
	営業利益	▲12	▲70	▲58	-	-
その他	売上高	99	60	▲39	▲39%	▲39%
	営業利益	▲50	▲60	▲10	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-
	営業利益	▲410	▲480	▲70	-	-
合計	売上高	7,865	8,000	+135	+2%	+4%
	営業利益	810	810	0	0%	+9%

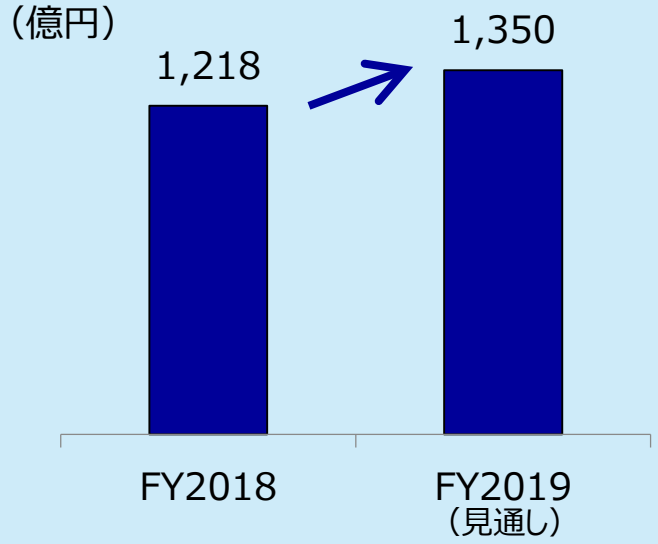
No data copy / No data transfer permitted

通期見通し　③セグメント別業績詳細

医療

■ 新製品の拡販による収益性の改善

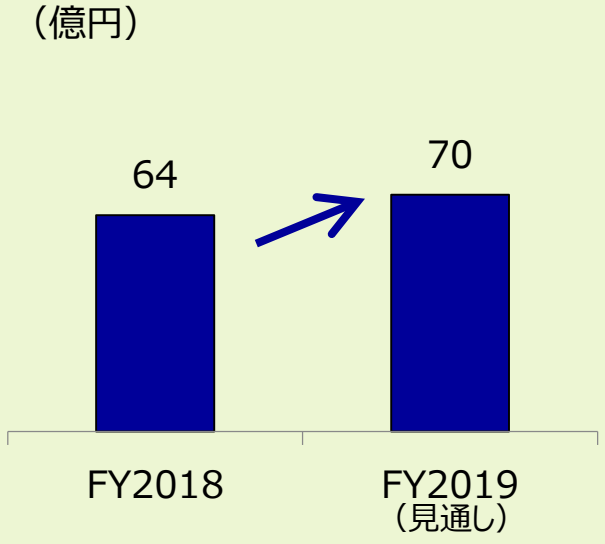
- ✓ 消化器内視鏡分野では先期に引き続き新スコープを導入
- ✓ 外科分野では、「VISERA ELITE Ⅱ」を拡販し、エネルギーデバイスは全地域で成長
- ✓ 処置具分野はラインナップ拡充により売上増



科学

■ 産業分野の成長が加速し、増益

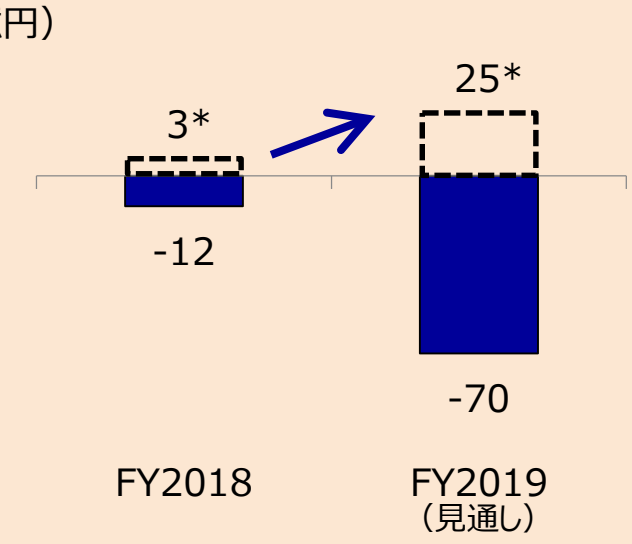
- ✓ 産業分野は、市場環境の改善により、堅調に推移
- ✓ ライフサイエンス分野は、費用適正化により収益性改善



映像

■ 構造改革を推進し、安定した黒字体質を確立

- ✓ 引き続き、収益性の高いミラーレス一眼分野に注力
- ✓ 生産構造改革費用（中国生産子会社操業停止費用）を除けば、3期連続の黒字

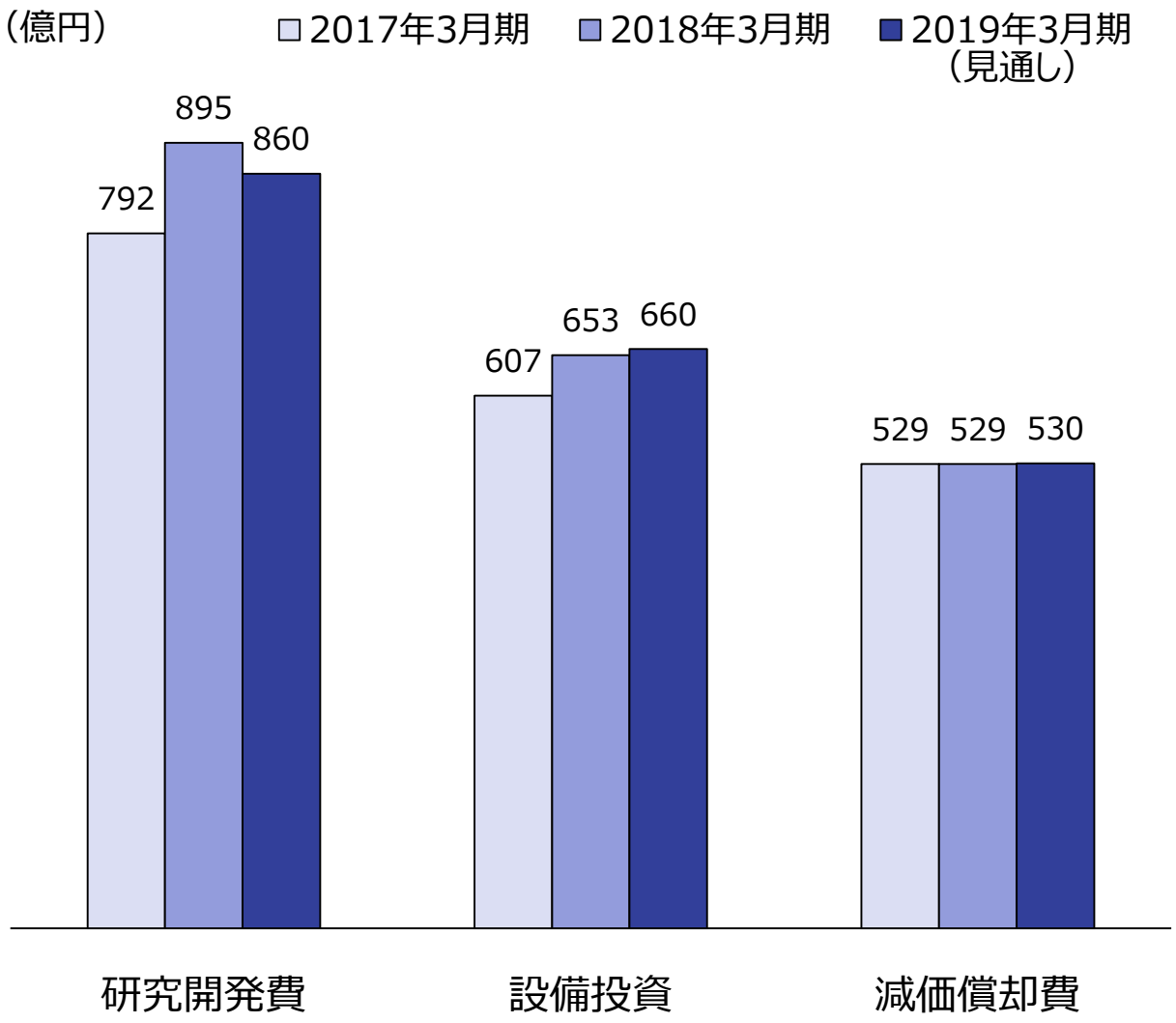


*中国生産子会社操業停止の影響を除いた数字

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

投資等（研究開発費、設備投資、減価償却費）

通期実績および見通し



研究開発費詳細

（単位：億円）	FY2017	FY2018（＊1）	FY2019（見通し）
研究開発費（対売上高比率）	792 *(10.7%)*	895 *(11.4%)*	860 *(10.8%)*

ご参考

（単位：億円）	FY2017	FY2018	FY2019（見通し）
開発費資産化(＊2)	70	103	120
償却費	48	70	

	2017年3月末	2018年3月末
開発資産残高	283	325

（＊1）全子会社で親会社と同様の発生基準に統一したベース
（＊2）開発費資産化の数値は上段の研究開発費に含まれています

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

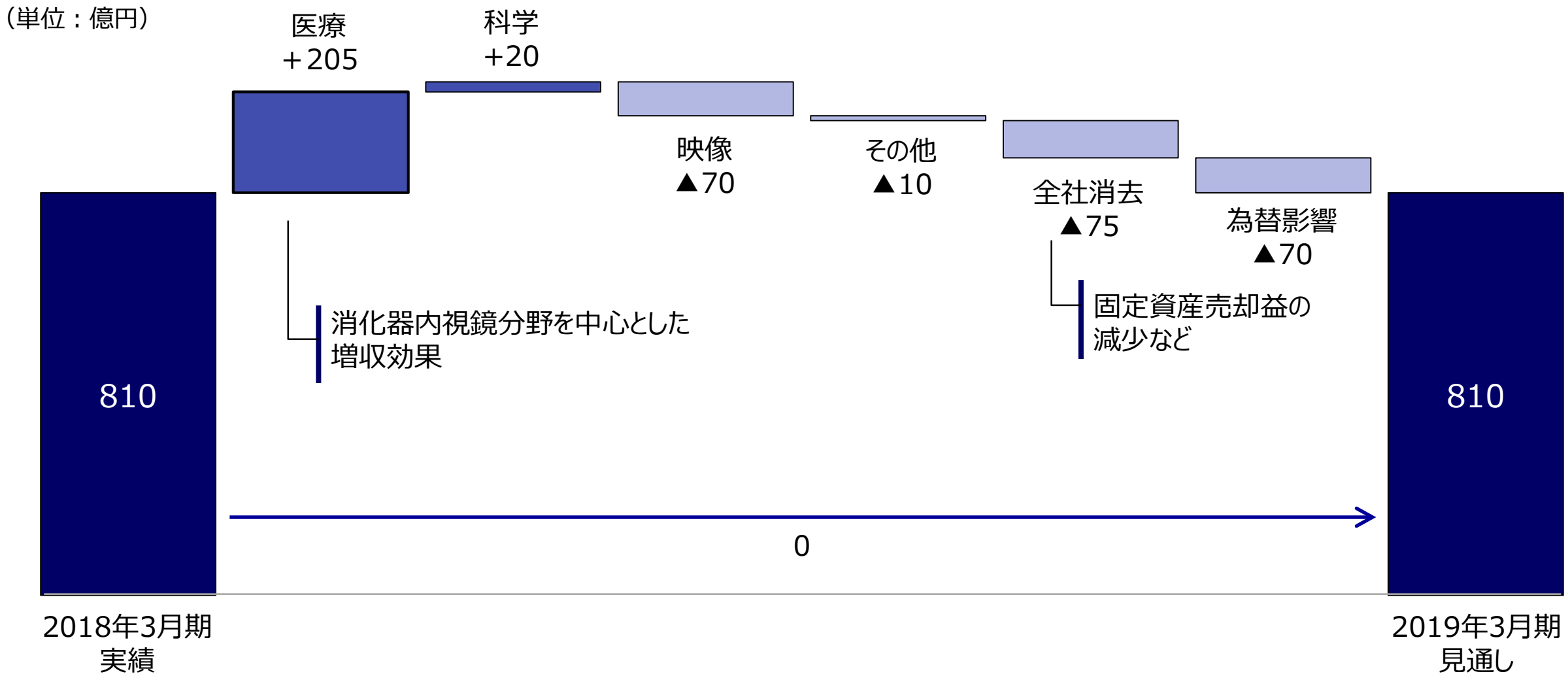
OLYMPUS

Appendix

No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】通期見通し　営業利益の増減分析（前年同期比）

通期実績（4-3月）



No data copy / No data transfer permitted

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期　通期　①連結業績

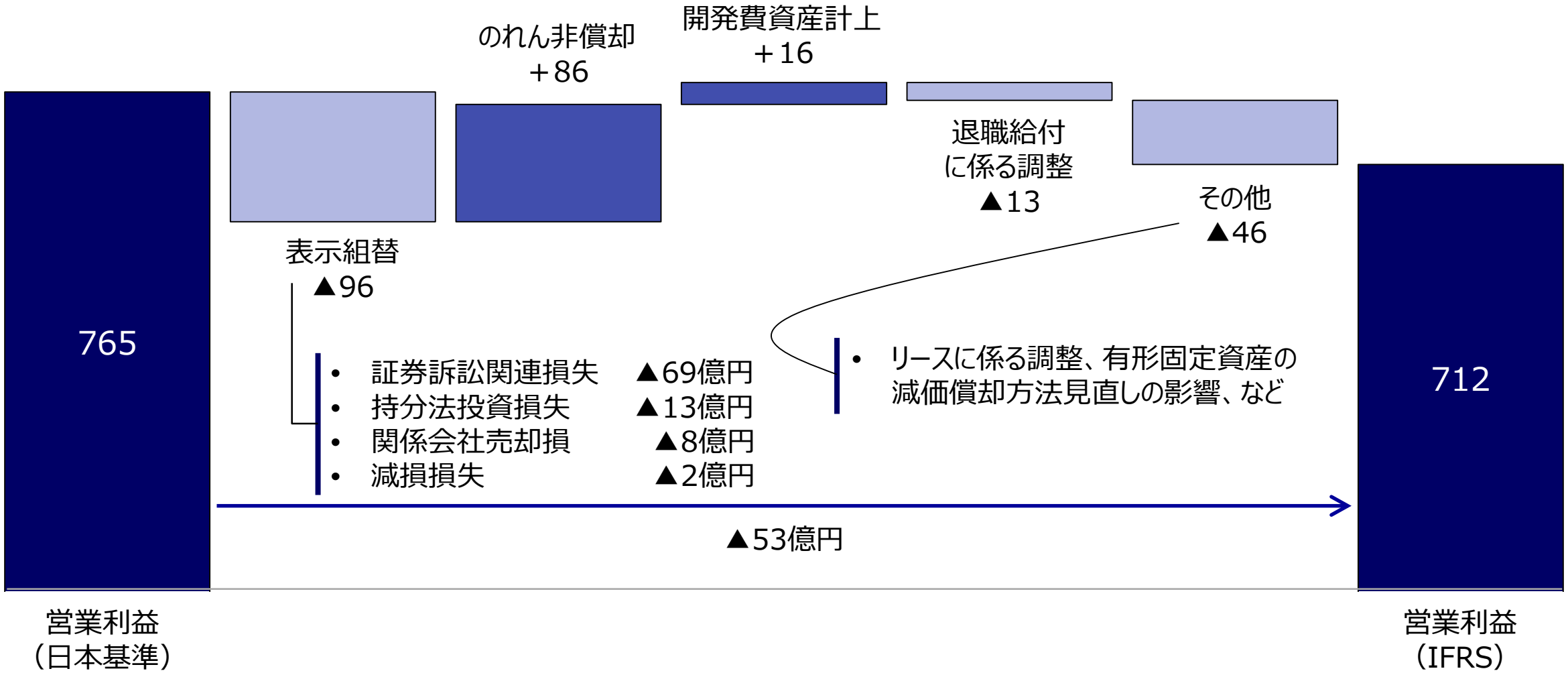
通期実績（4-3月）

（単位：億円）	2017年3月期実績（日本基準）	2017年3月期実績（IFRS）	差異
売上高	7,481	7,406	▲75
営業利益	765	712	▲53
税引前利益 [IFRS] 税金等調整前当期純利益 [日本基準]	817	625	▲192
親会社の所有者に帰属する当期利益 [IFRS] 親会社株主に帰属する当期純利益 [日本基準]	782	428	▲354

No data copy / No data transfer permitted

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期　通期　②営業利益増減分析

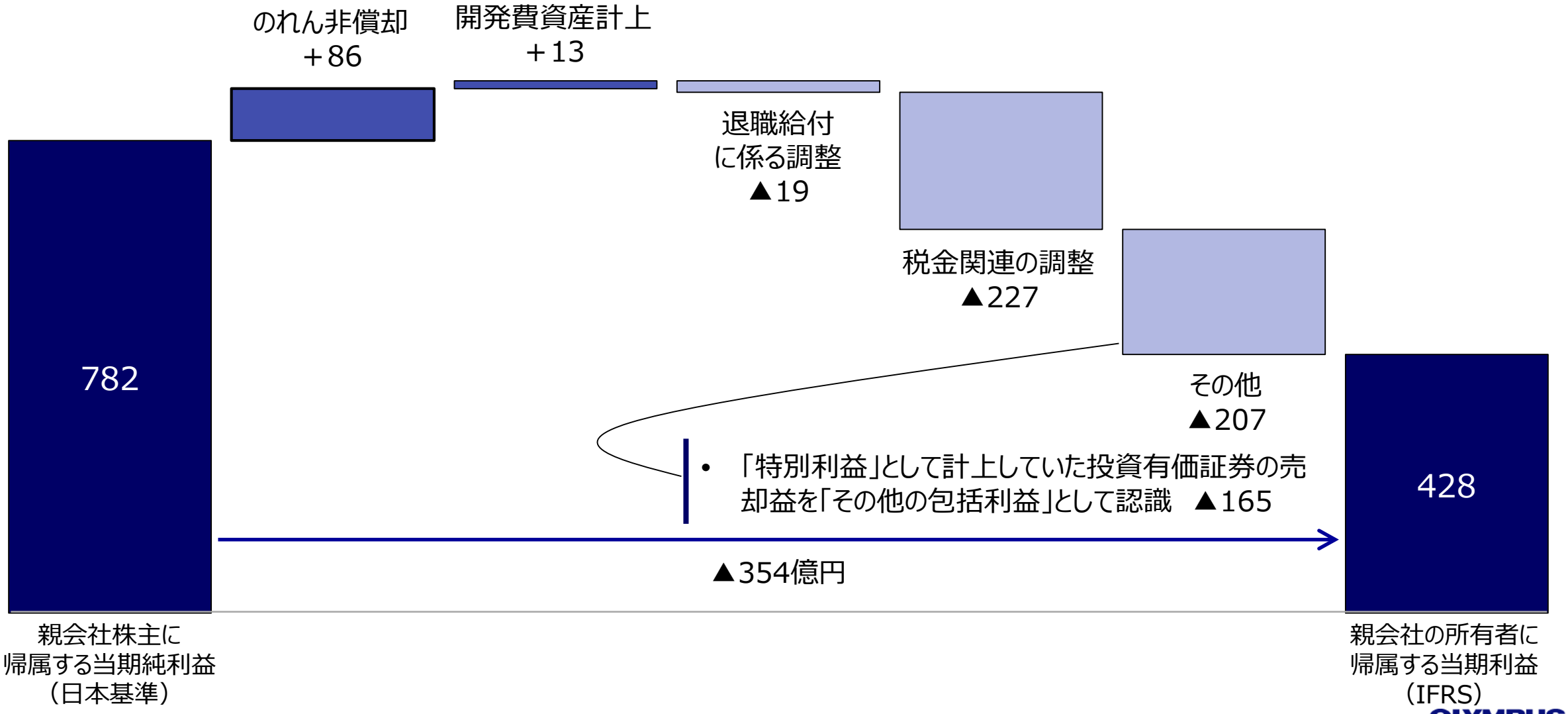
通期実績（4-3月）



No data copy / No data transfer permitted

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期　通期　③当期利益増減分析

通期実績（4-3月）



No data copy / No data transfer permitted

【参考資料・IFRS比較】2017年3月期　通期　④セグメント別業績

通期実績（4-3月）

（単位：億円）		2017年3月期実績（日本基準）	2017年3月期実績（IFRS）	差異
医療	売上高	5,753	5,704	▲49
	営業利益	1,155	1,147	▲8
科学	売上高	932	934	+2
	営業利益	53	59	+6
映像	売上高	656	628	▲28
	営業利益	5	2	▲3
その他	売上高	140	140	0
	営業利益	▲46	▲11	+35
全社・消去	売上高	-	-	-
	営業利益	▲402	▲485	▲83
連結合計	売上高	7,481	7,406	▲75
	営業利益	765	712	▲53

No data copy / No data transfer permitted